

# 成溪會誌

2000.7 No.91



## 就任

専務理事に就任して  
法学部長に就任して  
小学校長に就任して

加藤 節……………2  
植村 栄治……………3  
岡崎 忠彦……………4

## 特別企画・特別寄稿

文人……中村春二の横顔  
座談会／昭和初期の成蹊  
中・高年の整形外科の疾患  
東京のグランドデザイン

中村 温……………5  
山本 龍二……………6  
伊藤 滋……………18

## 随想

下丸子勤労働員の思い出  
今日この頃……パリの地にて  
西洋・東洋の間から  
小岩井農場あれこれ  
映画作りの極意は「待つ」こと  
時速三〇〇kmの世界  
愛しき成蹊学園サッカー部

旧高19回有志……………25  
松本 弘子……………27  
中山 暁……………28  
菅原 幸治……………30  
手塚 眞……………33  
上野 禎久……………34  
小楨 一郎……………36

表紙絵のことは／9 日本賽歌祭／54 大学ラグビー部／54  
同級生交歓／56 新聞記事より／17・57・62・63・64

成蹊会ホームページ・Eメールアドレス／55 結婚紹介センター／55  
学術・教育助成研究報告／58 教職員退職挨拶／60

公開市民フォーラムご案内／62 予告／63 第77回枯林忌／64  
物故会員／64 寄付金芳名録／65 学園近況／66 学園史料館／72

## 同窓のついで

●第23回成蹊桜祭……………38  
●恩師を囲んで……………40

土方学級クラス会 宇野ゼミ同窓会  
朝倉先生の叙勲を祝う会 山形学級いさぎ会  
船越学級クラス会 故安藤先生追悼会

●学校・年次会・ゼミOB会のついで……………42

新宿成蹊会 東京医科歯科大学成蹊会  
大学卒業30周年 昭和26年大学入学者の集い  
えびす33会 旧制高校四回生の集まり  
高校卒業35周年 小学校東西南北の会  
やよい会親睦会

●体育会・文化会OB会……………47

SGCゴルフ大会 大学ラグビー部50周年  
成蹊ラグークラブ歓送・慰労会 準硬式野球部OB会  
地理研OB会 OBテニスインターハイ  
ラグークラブ桜祭り

●業界・企業・趣味のついで……………50

●地域のついで……………51  
魚河岸成蹊会

シドニー成蹊会  
オーストラリア・クイーンズランド成蹊会  
ロンドン成蹊会 北海道支部枯林忌の集い  
愛知成蹊会 岐阜成蹊会 岡山成蹊会 九州支部総会

アジア太平洋研究センター／74 図書館蔵書紹介／76

成蹊会事業報告／77 成蹊会報告／78

表紙の題字は故上條信山先生、絵は長田美枝子(女・8年)

# 文人 … 中村春二の横顔

なかむら  
中村 温 ゆたか

私の父は、中村浩と言って成蹊創立者中村春二の次男である。従って、私は中村春二の孫に当たるわけである。とは言うものの祖父の没年は大正13年、私は昭和の生まれだから、当然の事ながら、祖父の事を直接は知らない。

しかし、家には祖父の書いたものなどが沢山あったし、子供のころから祖父について父からもいろいろな話しを聞かされた。その中から垣間見た祖父春二の一面をご紹介しよう。

私の父は科学者だったが、中村家の先祖には文人が多い。春二の父も宮内省御歌所寄人を勤めた人であった。春二の作品にもその影響からか短歌が多い。

池袋に成蹊実務学校を創立したころ、道端にある一本の椎の若木に心を引かれて

「道のへの椎の一本 葉かけなお まばらなれども 椎の一本」とよんだ。

自分の預かっている生徒同様この椎の若木も、すくすくと育っていく事である。と言う思いを込めたこの歌は、今でも成蹊小学校の卒業生に短冊にして贈られている。

また

「わが膝の もとにおきてぞ 育てまし めぐしわが子はわが生みにしを」

と言うのがある。我が子の誕生を喜んだ歌であろうが、自分の預かっている子供たちへの愛情も同じであったろうと推察できる。と同時に成蹊建学の志もそこに読み取れるように思う。

人生訓に類するものとしては

「男の子とし 生まれける身は 徒になす事もなく 朽ちてはてめや」

と言う歌がある。これは、春二がいまわの際に男の子を枕元に呼んで聞かせたと言われている。

また辞世の歌となつたのは

「われからと かけし雲の衣 とけゆけば さやかなりけり 秋の夜の月」とあり、これは、染井にある春二の墓の墓石に刻まれている。

春二は生徒達に文学を親しませるため、漢字を使わずにかな文字だけで文章を書いたり、いろいろ工夫をしている。その中から二つほどご紹介しよう。

その一つは、「五行詩」である。短歌の形態はそのままにして、難しい漢字や言葉づかいを避け、作り易くしたものである。

にもつ 捨てたい思いながらも縛られた 手かせ足かせ 困った荷物

はか 今までは 何とも無かったお墓が どうも気になる 年のせいかしら

小学校生徒の作品もご紹介しよう。

青桐のひかげでできた 影もよう 風吹くたびに 形かえます(児玉幸多)  
うちの犬 もとは三匹、今は一匹、毎日さびしく暮らしています(今村真子)

その二つは【唐詩選ぬきほ】である。これも漢詩を易しく解釈したものである。

春眠不覚曉

処処聞帝鳥

夜来風雨声

花落知多少 孟浩然

これが次のようになる。

ああ ずいぶんよく寝ちゃった

おや うぐいすが鳴いている あっちでも こっちでも

そうそうゆうべ雨が戸に打ちつけたが

きつと花は かなり散ったろう

皆さんよくご存知の

【桃李不言 下自成蹊】を春二は即興でこう訳した。

桃や李は 物言わねども その下自ずと道がつく

わしが植えたる 教えの木にも 慕い寄り来る 人もある

謹厳と思われている教育者 中村春二の違う面を感じていただければ幸いです。

(政経・33年)

先輩の回顧談

—その1—

昭和初期の成蹊

出席者 丹治 道生氏（旧高・昭和6年卒）  
 井上 陽一氏（旧高・昭和6年卒）  
 水谷 政静氏（旧高・昭和11年卒）  
 岩崎英二郎氏（旧高・昭和17年卒）  
 島尾 和男氏（旧高・昭和20年卒）

司会 二〇〇〇年一月十三日  
 於 ニュー・トーキョー「ラ・ステラ」



丹治道生氏

草刈りなどをした。  
 また、授業時間割に作業の時間があり、三上先生などの先生と一緒に、グラウンドの整備、狭窄射撃場の土手作り、大根作り等をした。掃除するだけでも教育だ。

井上 その通り。作業では陸上競技のグラウンドが一周三百五十メートルしかなかったのを四百メートルに直した。

司会 その作業教育はそのあととずっと続いていて、昭和十五年にはプール作りの土掘りを生徒たちがいたしました。作業教育と言えば、新東京百景に選ばれるなど、有名になったあの成蹊の櫻並木の植樹を、生徒が手伝ったというお話があるようですが、いかがでしょうか。

井上、水谷 グラウンドの整備などでしたが、櫻の植樹はしていないと思いましたが、成蹊会というものが釈迦が悟りの丹治 成道会というのが釈迦が悟り

を開いた十二月八日にあり、立派な人の講演会があった。近角常観師・久留島武彦氏の話が面白かったのを覚えている。それから断食会が鶴見の総持寺であり、なかなか辛い修行であった。  
 水谷 断食は小学校高学年では一日、尋常科、高等科では三日だった。私の時は鎌倉の田寛寺。  
 井上 池袋時代から成道会の晩に墓場で名前を書いてくる試験胆会があり、小学校の時落合の墓場で上級生に脅かされた。後には驚かすのが楽しみになった。  
 水谷 上級生が脅かすと分かってはいたが、それなりにびくびくした。

枯林忌

丹治 中村先生の没後に成蹊に入ったので、年中行事の枯林忌が無ければ先生のことを知らなかった。

私の孫は中学・高校、大学と成蹊だが、中村先生のことをよく知らなかった。学校行事としての枯林忌を復活して貰いたい。

司会 枯林忌の学校行事としては、いまでも小、中、高では朝礼のさいにそれについての話があり、饅頭などを配るようです。御承知のように、学園と成蹊会主催の枯林忌は、毎年二月中



井上陽一氏

井上 私は大正七年小学校に入學、中学になってから旧制七年制高校になった。水泳で池袋の池に投げ込まれたなど、小学校時代の中村先生の印象が強く、中学が抜けて、高等科のことを極めてよく覚えている。  
 今の教育が「が知育（点数教育）、次が体育、最後に徳育なのに対して、旧制高校では一が徳育（心の教育）、二が体育、三が知育だったのが特徴

旬の御命日に近い土曜日に、先生のお墓参りと過去一年に亡くなられた学園関係者、卒業生を悼む集いとして行われています。

丹治 私は今日は思い出話というよりは、今の教育に中村先生の精神を活かして貰いたいと言うことを話したかった。

旧制高校の教育…  
徳育、体育、知育

だ。その最たるものが成蹊の教育だった。そして、先生、先輩、後輩との付き合いの親しさを懐かしく思い出す。先日モータークラブの会合で、

某東大法学部教授が旧制高校の様な教育をしていれば、点数、点数、お金、お金で人を押しのける今の世の中にはならなかったのではないかと話すのを聞いた。

小学校の時の中村先生は、非常に躰の厳しい方で、毎朝の心力歌の唱和は、小学生だから中身は解らないが今になってよいことだったと思う。関東大震災で、成蹊女学校の生徒が心力歌に引用されている観音経を唱えながら安らかに亡くなったという話を聞いた。

丹治 女学校と言えば、年一回、目の女学校生徒が吉祥寺に來校し、彼女等が観音経を挙げる機会があり、その朗誦は素晴らしく感動的だった。

小学校の英語

井上 羨は厳しいが、小学校から英語を教えるという進んだ教育もした。黒須先生という美人の先生から教わった。

丹治 私は中学からなので、入学が決まってから入学式までの間に、目の女学校で英語の準備教育をその美人

の黒須先生から受けた。

試験無監督制度

司会 中村先生は厳しい反面、生徒の自主性に任せるといふようなことはありませんでしたか。

丹治 それに関しては、生徒を信頼しての試験無監督制度があった。

司会 その制度は、たしか浅野校長時代の終りまで続きました。

丹治 浅野先生は仏教的教育をされた。岩崎小弥太氏は自分が宗教的教育を受けなかったで、その面を浅野校長に特に託されたようだ。

先生と生徒

水谷 池袋の小学生時代、水泳でプールに投げ込まれて、腕を折った。しかし、そんな時、今のよう父兄が集まって、それを云々するようなことはなかった。先生を信頼していたから、やや語弊はあるが、そんなことは当たり前だった。

また、小学校の箱根の夏の学校で、植物学の大家の牧野富太郎先生がご自身でその辺の草を採って教えて下さったことをよく覚えている。  
 池袋時代の小学校の遠足では長崎村

の御富士さんとか狐塚に行ったが、帰校してからのお三時が楽しみだったなど、厳しい中にも家庭的な雰囲気があった。

井上 中村先生の学校では夏休みはなくて、箱根での夏の学校があった。今の箱根カントリークラブ辺りの川辺、仙石原で、一週間のテント生活をして、点数教育（知育）とは無関係の、体育や食事のマナーなどを教わったことが、思いやりやお互いの助け合いと言ふことに役立ったと思う。

司会 寒稽古について何か思い出はありますか。  
 丹治、井上、水谷 部活動ではなくて、全員が剣道か柔道の朝六時から寒稽古を一週間した。

その後の朝食が美味しかった。剣道には今村先生もニコニコ顔で見えなくなっておられた。  
 水谷 生徒が小人数だったので、先生と生徒が一緒になって遊んだ。高橋健二先生（ドッホ）は私のクラス担任で生徒と良く付き合ってた。山中湖キャンプで先生と山本有三先生のお宅を訪ね、山本先生と一緒志賀直哉さんのお宅まで行った。高橋先生はこの時志賀さんに始めて会われたのだと思う。その時の志賀さんの風貌を

覚えていた。また、先生を始めてのス  
キーにお誘いしたのも私だった。  
最後にお目にかかったのは、十数年  
前、隣のドイツ大使館文化部長宅に先  
生が見えた機会にお寄りいただいたと  
きた。

井上 化学の岩永先生は籠球部の部  
長でインターハイの京都遠征に同行し  
て頂いた。

丹治 岩永先生は教え方が上手で卒  
業生で化学方面に進んだ人が多かった  
のではないかと。それに比べ、金光先生  
は物理を嫌いになるような教え方をさ  
された。加藤藤吉先生（エーコン）は、  
私が中学二年の時、府立五中から転任  
してこられて理科を受け持たれた。子  
供の頃から思っていた技術者になろう  
という意志をかためたのは先生のお陰  
であった。

先生から気象観測の指導をうけた。  
一日も欠かさない計測とその整理、後



水谷政静氏

ことに感無量だ。  
司会 水谷さんの締めおられるネ  
クタイは成蹊のスクールカラーと言わ  
れている赤と黒ですが、その由来を聞  
かせて下さい。

水谷 ラグビー部、籠球部が古くか  
ら使っていたもので、私は共産党が無  
産党の旗の色のようにあまり好きでは  
なかったが、戦後陸上競技部を始め皆  
が使っているので結構いい色合だ。

井上 ラグビー部は大平成美さんが  
始めた。練習では井上秀郎さんや高尾  
恭三さんなどに絞られた。秀郎さんは  
まともに行けば一回生のところを卒業  
は我々四回生と一緒にになった。

丹治 秀郎さんは兵役を成蹊在学中  
にすませたので年長だった。私が東北  
大の金属、秀郎さんが数学で同じ下宿  
に居たとき、いろいろと社会の勉強を  
させて貰った。その後成蹊の数学の先  
生になったと聞いてよかったです。

司会 私も数学を習いました。

丹治 私は大学では機械の勉強をし  
ようと思っていたが、東北に本多光太  
郎先生がいっしょにやるのを知り、機械  
の元は材料の金属と考えて東北に行った。  
水谷 丹治さんは本多先生と話す機  
会がありましたか。

丹治 総長になられたので殆どな

年学位を授かった研究姿勢の基本と  
なったと思う。

水谷 鈴木一郎先生の数学はきつ  
かった。宿題をしてこないで解答がで  
きないと黒板の前で時間中立たされた。  
丹治 私は東北大学を受けると言っ  
たら鈴木先生に落ちるよと言われた  
が、幸い志望者が少なく無試験で入学  
できた。

南條先生とはよく山を歩いた。

学生寮

司会 丹治さんが入っておられた寮  
はどんなでしたか。

丹治 家が滝野川で通学に不便だっ  
たので、寮に入った。静寮といっ  
て、尋常科から高等科までいろいろな  
学年の多くの人がいた。食堂の隣にあ  
り、軍隊式に通路を挟んでベッドと机  
のあるトラスコンの倍程の長さの細長  
い二階建てだった。毎朝桑原先生が先頭  
に立たれ駆足があった。

水谷 学校の敷地の外にも小さな寮  
が三つ（守之寮、操要寮、有定寮）あ  
り、それぞれ数人の寮生がいた。岩崎  
小弥太さんが英国のパブリックスクー  
ルに做って寮を作られたようだ。

池袋時代の寮では、末広殿太郎さん  
や南原繁さんなどが東大学生で寮長を

作ることが多かったのですね。

丹治 本多先生は腹が太く悠々とし  
ておられ決断は早かった。  
井上 私の頃は落第をあまり深刻に  
は考えず悠々と高校生活をする人も居  
た。南郷茂治さん（あだ名雲海）もそ  
の一人。後に甲南高校で、最も苦手  
だった英語の先生になったと聞いて驚  
いた。声が良く大きかった。

丹治 秀郎さんは声が良く、昭和四  
年NHKの合唱コンクールで成蹊が優  
勝したときのメンバーの中心人物だった。

井上 私もそれにかり出されたが、  
お前は口だけ動かしにくいと言

しておられたことがあったそうだ。  
井上 末広さんは私が東大生の時、  
民法の先生で、当時としては珍しい自  
動車通勤をしておられた。

司会 寮の中には、在外父兄の子  
や帰国子女を預かる場所もあったと  
聞いていますか？

水谷 あった。松平君、沢田君兄弟  
などが入っていた。帰国子女が日本語  
で覚えるまでは特別なクラスで、その  
後は一般のクラスに入ったと思う。

食堂での集団食中毒

丹治、井上、水谷 食堂で海老入  
りの芋サラダで集団食中毒があった。

水谷 私はそれが臭かったので、海  
老をよけて食べて中毒を免れた。

井上 私は下宿していたが、夜中に  
具合が悪くなり、翌日登校したら三分  
の一が中毒していた。

水谷 芋が熱い内に海老を入れたた  
めとのことだ。

部活動のことなど

司会 皆さんの頃の成蹊では、ス  
ポーツなどの部活動はいかがでした  
か？

丹治 寮の前に七面ものテニスコー  
トがあった。

司会 戦後成蹊にオーケストラを  
作ったとき、秀郎さんはコントラバス  
を弾いておられました。

今回の記念事業の一つとして、私た  
ちはいま成蹊の歌を集めています。  
「回顧録旧制成蹊高等学校」に高橋健  
二先生作詞のラグビー部歌が載って  
いるのですが、そのメロディーをご存  
じでしょうか？

丹治、井上、水谷 その歌は知らな  
い。

司会 予定の時間となりましたが、  
終りに何か一言ごいませんでしょうか。

井上 今の教育は、一が徳育（心の  
教育）、二が体育、三が知育であった  
旧制高校の教育とは余りにも違っ  
てしまいましたが、なんとか旧制高校の教育の  
精神に帰って貰いたい。

丹治、水谷 同感。

司会 テレビやインターネットなど  
の過剰な情報にいわば絶えず汚染さ  
れ、家庭の状況も昔とまったくことな  
る現在の児童や生徒の教育を、もし中  
村先生がいま生きておられたら、はた  
してどのようにされるのだろうか、と  
今日の教育の難しさをつくづく考えさ  
せられます。いろいろなお話を有り難  
うございました。

井上 山岸次郎、藤倉兄弟など、  
成蹊を卒業はしなかったけれども、在  
学したテニスの有名選手がこのコート  
から生まれた。

私は中学の時競争するといつも最初  
にテープを切った。高等科の幅跳びの  
有名選手の記録が五メートル五十  
頃、体操の時間に跳んだら六メートル  
〇五で有名になり、朝礼で全校生徒の  
前で浅野校長に表彰された。その後も  
百メートル十一・六秒、幅跳び六メー  
トル七十五などでも同じように表彰さ  
れた。浅野先生の体育重視の現れだ。

籠球を主にして、ラグビーと陸上を掛  
け持ちして練習が忙しく、ラグビーの  
大平さんや井上秀郎さんには籠球をや  
めろといわれたり、早稲田から陸上の  
コーチに来ていた全日本四百メート  
ルリレーメンバーの村上さんや山口さん  
からはオリンピックにいけるからと陸  
上に誘われたが籠球を続け、高校三年  
の時、インターハイ優勝、全日本優  
勝、成蹊チームから極東オリンピック  
の日本代表チームメンバーに私と田中  
秀次郎が選ばれるなど成蹊の名を挙げ  
ることができた。

丹治 私は旅行部の委員長をしてい  
たので、卒業の翌年完成した虹芝寮が  
戦中、戦後を経て今も使用されている

表紙絵のことば

善福寺公園は、よく行く写生地  
の一つです。

東、西、南、北どちらからも、  
坂の下の窪地にあり、バス通りを  
はさんで上、下二つの池と、それ  
をかこむ樹々は、春、夏、秋、冬  
それぞれにちがった顔をみせてく  
れます。

春の桜、芦の芽吹き、新緑、夏  
の深緑、秋の黄葉、冬の裸木、枯  
芦、その影をうつす池も、さまざ  
まに変化して行きます。

一日の中でも、時々、刻々とち  
がった顔になり、三十分と一つ表  
情ではいけません。

真夏の一日、はげしい雷雨にみ  
まわれ、みるみる池の水があふれ  
てきて、にげる間もなく靴をぬら  
したこともあります。

私が小学校に通っていた頃の遠  
い日のこの池は、どんな顔を見せ  
ていたのでしょうか。

この日は風もなく、おだやかに  
晴れて、空には白い雲がのんびり  
と楽しそうにうかんでいました。

長田美枝子（女・8年）

田正明先輩（ホンダオート三重顧問）のご尽力のもと、第19回の三重成蹊会を鈴鹿サーキットで開催していただきました。

## 愛しき成蹊学園サッカー部

こまき いちろう  
小槇 一郎



皆様も是非、鈴鹿サーキットにお出かけ下さい。  
心よりお待ちしております。  
鈴鹿サーキットランド（経・63年）

格」という創部以来初めてとなる貴重な経験をすることが出来ました。

今回「成蹊会誌」への寄稿にあたっては、その関東大学リーグ二部昇格当時の様子を熱く語ってみようかとも考えましたが、現在、私自身が成蹊学園サッカー部OB会事務局の一員として学園サッカー部全体の発展を目指した活動を行っていることもあり、過去の先輩方がどのような時代や環境で学園サッカー部を歩まれ、そして今のサッカー部がどのような状況にあるのか、簡単に振り返りたいと思います。

### サッカー部の誕生

「蹴球部は以前は運動部の一部でありましたが、本年四月から不言会内に純然たる一つの蹴球部として置かれる事になりました」

私は成蹊小学校に入学し、小学校五年の時のクラブ活動でサッカー部に入学後、昭和62年の関東大会で優勝し関東二部リーグ入替戦で勝利し、創部以来初めてとなる関東リーグへの昇格を果たしました。入替戦が行われた西が丘サッカー場に当時びっくりする程のOBにお集まり頂いたことを記憶しています。勝利の瞬間、私たちと同じ様に涙を流し昇格を喜んでくれる先輩方を見て、現役生だけが勝利の為に闘っているのではなく、先輩方が築き上げ、守り抜いてきた成蹊蹴球部の看板を背負っているのだということに改めて気付かされた思いがあります。



中学全国3位

大学蹴球部は関東二部リーグで二シーズンを通じた後、東京都リーグに降格し現在は二部リーグに甘んじていますが、Jリーグへ二選手を輩出する等、技術・戦術的には当時を上回るレベルに達しています。高校サッカー部は、昨年の新人戦で地区優勝を果たし、関東大会東京都予選への出場権を獲得。大学と同様、OBが指導に当たっている中学サッカー部は東京都大会への復帰を目標に数多くの対外試合を消化し、東京都選抜の最終候補に残る選手を輩出する等、一環教育の基礎となる重要な機能を果たしています。



関東大学入替戦

この様な記述が大正7年発行の「こまき 第二文集」にあります。サッカー部はこの大正7年（1918年）4月に創立されました。

当時の「こまき」には、サッカーそのものが英国の国技として盛んに行われ、足ばかりでなく全身の運動になること、また多人数を要し相互の一致や臨機応変な対応を取らなければならぬという競技の性質上、身体上のみならず精神を鍛える上でも優秀で且つ現代的な遊戯であること等が紹介されています。

大正14年に旧制高校が設立され、昭和5年から東京蹴球カレッジリーグ第四部へ加盟し蹴球界へ本格進出。昭和13年に行われた関東高等リーグで優勝を果たす等、蹴球部はその歴史と共に着実な前進を続けていきました。しかし、昭和22年、終戦後復刊された「こまき」に、「同好会的な集合であった蹴球部も、他の名声ある運動部と共に数え上げられて活動し得る様になったので……」との記載があります。また、従来精神修養の道場としての運動部精神という考え方から、もっと陽気にサッカーを楽しむ当然の如く勝利を目指していくという活動の方向性の基礎が固められたのもこの頃であり、現

中学から大学まで各年代とも期待を抱かせる素材を抱えており、これからの展開が非常に楽しみになってきています。しかしながら、日本サッカー界全体のレベルアップが若年層から図られていることもありライバルチームと僅差の実力を持ちながら、技術や組織戦術において相手チームを上回りながらも勝利に恵まれられないというのが、現代サッカーの難しさとなっているようです。

### わがJリーグ

1993年のJリーグ開幕。1998年の日本代表ワールドカップ初出場。海外チームへの移籍を果たす日本人選手。2002年ワールドカップの日本開催。それらの情報を発信するマルチメディアの充実等、現代の日本サッカー界をめぐる環境は急速な進展を遂げています。

今回の振り返りを通じて、「一つのボールを相手ゴールに一つでも多く蹴り込んだ方が勝ちという極めて単純な原理の上に複雑なチームプレーが成り立っているサッカーという競技」の虜になり、体力の限界と戦いながら熱い毎日を通して来たという経験は、それぞれが過ごした時代や環境に左右さ

在のような不自由無環境でサッカーに打ち込む基盤となる組織が整備されるまでには、かなりの月日が費やされたこととなります。

この当時の蹴球部報には毎年の様に、不甲斐の無い成績に対する嘆きや反省、部員に対する叱咤激励が記されており、この時代に生きた諸先輩方の熱い思いや憤り、運営をしていく事に対する苦勞等が強く伝わってきます。

### 輝かしき栄光と今

成蹊学園サッカー部の中で輝かしき栄光と言えは昭和47年の全国中学校大会で第三位になったことではないでしょうか。当時、小学生だった私も毎日の様に母校の勝利を伝える新聞に目を引かれた記憶があります。

その後、雲の上の人の様な当時の先輩方と親しくさせて頂けるようになったことも、世代を問わず一体となって生き続けているサッカー部の伝統が生み出す良さなのではないかと思えます。

また、高校サッカー部では、昭和54年に全国高校選手権大会でベスト16に進出し、その年圧倒的な強さで全国制覇を果たした帝京高校と対戦をしています。

大学蹴球部では、昭和44年に秋季

れることなく、世代を超えてわかちあえる共通の事実だと強く認識することが出来ました。

このような歴史を振り返っていく上では、成蹊学園の代表として勝利という結果を追求していく運動部の宿命として、とかく「勝利＝栄光」というものにスポットが当てられ語られがちです。確かに、現役生が果たす勝利こそが、学園サッカー部関係者相互の、新たな結束・より強固なつながりを生み出す近道であることは事実ですが、OBとしてこれから新たな歴史を刻もうとする現役生を暖かく見守り、時には手を差し伸べ、それを受け入れる現役生はOBという存在のありがたさを肌で感じながらプレーする。その様な、世代を超えた心のコミュニケーションが維持され、醸成され続けていくことこそが、本当の隆盛や栄光を語るに相応しい学園サッカー部の在り方なのではないでしょうか。

長きに亘る学園サッカー部の歴史の礎を創り上げて頂いた先輩方から感謝をしながら……

（成蹊学園サッカー部OB会HP）  
<http://member.nifty.ne.jp/seikei-fe/>

三井生命保険（経・63年）



相変わらず人気のチアリーダー



旧制高校75周年の意気!



新企画/さくら寄席

そして社交ダンス講習会。こちらは現役の競技ダンス部員が、一般参加者を指導する方式で、参加者が約二時間簡単なステップを練習し、最後に音楽に合わせてダンスを踊るという趣向である。最近中高年を中心に社交ダンスが盛んだが、それに目をつけた初の大人参加企画である。子供参加として絶大な人気企画の乗馬サービに並ぶ目玉になってほしい。イベント会場の舞台でも学生のペアに飛び入りで踊ってもらったが、軽やかなステップは聴衆の拍手喝采を浴び、アピール充分であった。来年は参加者もドレスアップして、イベント舞台でステップを披露してもらってはという



新企画/社交ダンス講習会

案が既に出ている。さてその話題のイベント広場の舞台は、今年も小中高大の現役生と意気軒昂な卒業生とが楽しい雰囲気を生み出した。なかでも、ベンチャーズバンドは懐かしいベンチャーズサウンドを次々演奏。舞台前の聴衆ばかりでなく舞台のそここで、リズムに身体を合わせる姿が見られた。模擬店は今年もクラブや同窓会団体を中心として十六のお店が開かれた。天気に恵まれ売り上げはどれも上々の様子。千客万来の各店は二時過ぎにはほぼ品切れ状態。テントの数に限りがあるので希望団体すべてが出店出来ないが、旧交を温める場



セラー服主流の金管楽器群ウィンドオーケストラ

としても大いに利用してほしい。最後に今年も大勢の現役生の皆さんに協力してもらった。昨年以上のすばらしい働きぶりに、決してオーバーではなく成蹊の明るい将来を感じた。そしてこの桜祭も成蹊の伝統の一つとして、長く続けてもらいたいと願う。そのためにも今回の桜祭のスローガン「2000年ミレニアム/集まろう桜祭!! 払おう成蹊会費!!」そして「桜祭は成蹊会費と成蹊学園の協賛金によって運営されている」ことを忘れないでほしい。

布川純子(文・52年)

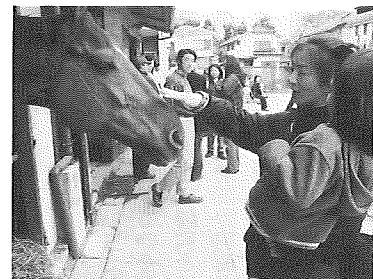
回を重ね準備は手慣れてきたが、当日の成功不成功は、やはりお天気頼み、桜頼みだ。で、今年はどうと桜祭に合わせるように、桜が咲き始め、天気も祭りにふさわしい日和。今年の目玉はというと、まず司会者の交代である。前回まではテレビ朝日アナウンサー田中滋実さん(OG)が担当していたが、ご主人の転勤のため退社渡米。今回からは新たに福井放送アナウンサー野田美佳子さん(OG)が担当することとなった。田中さんに劣らず会場の

隅々までよく通る声はさすがプロ。福井からわざわざ母校のために駆けつけて下さったことに感謝すると共に今後とも長くお願したいというのが委員の実感。次に新企画の「さくら寄席」と社交ダンス講習会の紹介をしよう。「さくら寄席」は落語研究会OBによる寄席である。現役のクラブは休部のようなのだがOBのパワーは全開だった。前日から寄席会場となった史料館の準備や本番前の呼び込み、そして高座と一人役もやる意気込みはすごい。

第23回  
**成蹊桜祭**  
2000年ミレニアム!  
集まろう 桜祭!!  
払おう 成蹊会費!!!

主催 ● 成蹊校友会(旧制成蹊高等学校) 協賛 ● 成蹊大学  
企画 ● 落語研究会 実行 ● 落語研究会 実行 ● 落語研究会  
後援 ● 成蹊大学 成蹊校友会

Seikei Alumni Association



いつも人気の乗馬サービ



まだまだ若いベンチャーズバンド



司会/野田美佳子さん